

IIW 国際溶接技術者資格制度

2011 年度「特認コース」を開催

IIW 資格日本認証機構 (J-ANB、Authorized National Body of Japan) では、昨年 9 月から第 4 回目となる「特認コース」を開催し、12 月 17 日の最終筆記試験をもって終了しました。期間中、10 月 28 日から 30 日の 3 日間は、コースの重要なプログラムであるケーススタディが大阪大学接合科学研究所で実施され、書類審査とプロフェッショナルインタビューの一次試験を通過した 13 名がこれに挑みました。

ケーススタディでは、J-ANB から与えられた具体的な溶接構造物の課題について各自が予習し、その成果を持ち寄って課題ごとに分けられたグループの中でディスカッションを行い、最終日には全員が成果を発表します。この予習からケーススタディ、発表・報告までのプログラムをプロジェクトワークと呼んでいます。プロジェクトワークを通じ、特定構造物の製造での計画・実施に関する課題に取り組む溶接管理技術者としての知識や業務遂行能力などが評価されます。

IIW (国際溶接学会) では、溶接技術者が修得すべき知識とその教育シラバスを整備し、所定時間以上の学習と試験を経た後に終身ディプロマを授与する国際溶接技術者資格制度を 1998 年から実施しており、これまでに世界中で約 6 万人を超える溶接管理技術者、溶接検査技術者が資格を取得しています。特に欧州では CE マークを表示する製品の製造には IIW 国際溶接技術者資格が必要になるなど、国際的に事業展開している企業の技術者にとって重要、かつ価値のある資格であるため、日本においても約 2,300 人の技術者が資格を取得しています。

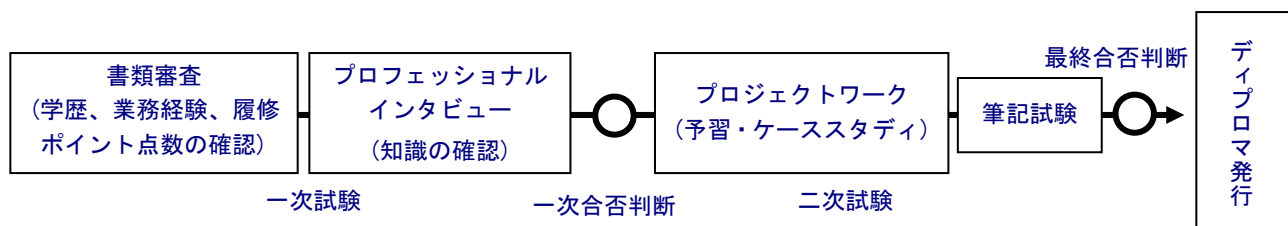
この IIW 国際溶接技術者資格を取得するには、いくつかのルートがあり、もっとも標準とされている正規コースに参加すると 227 時間～438 時間以上の講義と実習を履修しなければなりません。しかし、この特認コースでは、それぞれの資格に応じた知識をあらかじめ持っていることを証明することにより (履修ポイント点数、プロフェッショナルインタビュー、プロジェクトワーク)、最終筆記試験に進むことができます。多くの時間を割くことなく、日常業務に携わりながら IIW 国際溶接技術者資格を短期間に、かつ安い費用で取得できるコースとなっています。

なお、現在日本では前に述べた特認コースのほかに、正規コースとして発展途上国の溶接技術者を日本で教育訓練する JICA 国際溶接技術者コース、(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構ポリテクセンター兵庫に入所した訓練生を対象にした IWS コース、および大阪大学工学部修士課程の学生を対象とした IWE コースの 3 つのコースが実施されています。

昨年 10 月末に実施したケーススタディでは、特認コースの社会人技術者に混じり、大阪大学 IWE コースの学生も参加しました。溶接は「ものづくり」の基礎となる技術です。企業の第一線で活躍する溶接技術者と一緒になってディスカッションしたことは、実際の「ものづくり」を経験したことの無い学生にとって、非常に有意義な体験であったことでしょう。



ケーススタディ ディスカッションの状況



特認コースの流れ